

信仰の姿勢（魂の救い）



聖書は、私たちに時に厳しく、しかし愛をもって語りかけます。

「怠け者よ、蟻のところに行って見よ。その道を見て、知恵を得よ Go to the ant, thou sluggard; consider her ways, and be wise」(箴言 6:6)。厳しいこの聖句は、ただ肉体的な怠けを戒めているだけではありません。むしろ霊的な怠惰、信仰生活における備えの欠如をも鋭く指摘しているのです。

ここで蟻は、小さな存在でありながら、首領（しゅりょう、Don）も指揮官もなく、自ら判断し、夏の間にパンを備え、刈り入れ時に食糧を集めるといいます（蟻でないわたしは、正確なところは分かりません）。ここで蟻は、命じられることなく、自発的に、そして先を見据えて行動しています。

「**先手必勝**」の知恵です。先を読み、備える者は、危機の時にも動じません。これは防災の基本の中の基本です（**自助**＞**共助**＞**公助**）。

私たちの人生も、いつ何が起こるか分かりません。病気や災害、心の葛藤やサタンの誘惑は、時を選ばずにしょっちゅう私たちを攻めてきます。その時、何の備えもなく過ごしていたら、どうなるでしょうか。

信仰とは、ただ安逸に神様に身をゆだねることではありません。

真の信仰とは、聖書の御言葉と祈りの中に生き、神の定められた時に備える歩みです。

主イエスも言われました。「だから、目を覚ましていなさい。いつの日、自分の主が帰って来られるのか、あなたがたには分からないからである」(マタイ 24:42)。これはまさに、蟻のように賢く備えるようにとの勧めです。

マタイによる福音書	25:13 だから、目を覚ましていなさい。あなたがたは、その日、その時を知らないのだから。」
マルコによる福音書	13:33 気をつけて、目を覚ましていなさい。その時がいつなのか、あなたがたには分からないからである。
コリント信徒への手紙 I	16:13 目を覚ましていなさい。信仰に基づいてしっかり立ちなさい。雄々しく強く生きなさい。
ペトロの手紙 I	5:8 身を慎んで目を覚ましていなさい。あなたがたの敵である悪魔が、ほえたける獅子のように、だれかを食い尽くそうと探し回っています。

私たちは今、信仰の上で何を準備しているでしょうか。

日々の生活の中で、神の御言葉に耳を傾け、心の糧を蓄えているでしょうか。

聖書にあるように、霊的な心の怠慢から目を覚まし、自ら御前に進んで従う者となりましょう（なりたいたいものです）。

イザヤ書 30:15

まことに、イスラエルの聖なる方／わが主なる神は、こう言われた。

「お前たちは、立ち帰って／静かにしているならば救われる。安らかに信頼していることにこそ力がある」と。しかし、お前たちはそれを望まなかった。

蟻のように、静かに、しかし確かに歩む者こそ、神様の恵み（祝福）を受けるのです。